

かやましんでんにいやま  
芝山町香山新田新山遺跡

- 事業名** 駐機場整備に伴う埋蔵文化財調査  
**所在地** 山武郡芝山町香山新田字下堀尻台117-1ほか  
**調査期間** 平成29年2月8日～平成29年6月30日  
**調査面積** 18,482㎡  
**主な時代** 旧石器時代、縄文時代  
**主な遺構** 旧石器時代石器出集中地点3か所・出土地点2か所・炭化物集中地点2か所、縄文時代土坑2基・遺物集中地点2か所  
**主な遺物** 旧石器時代石器、縄文時代土器・石器  
**主な成果**

遺跡は成田空港第二旅客ターミナルに近接した南西側に位置しています。今回の調査では、旧石器時代後半の石器群が発見されました。出土層位は、立川ロームIV層上部からIII層下部にかけてで、東西7m・南北4mの楕円形の範囲から31点の石器が出土しました。

ナイフ形石器(1~4)は、長さが1.3cm~2.3cm程度の非常に小型で、幾何形(三角形・四角形・五角形・台形)の形状をしていました。このナイフ形石器は神奈川県大和市月見野遺跡群から出土した石器を標式とした、ナイフ形石器終末期の「月見野期」(約2万年前)に特徴的な石器です。大きさや形状から「小型幾何形ナイフ形石器」と呼ばれています。石材は信州系と思われる黒曜石が用いられています。ナイフ形石器の作り方は、分割した厚みのある石核(11)から鋭利な刃部をもった小型の剥片を剥がして、これを折断したものを素材(5~9)として、両側縁に急角度の細かい調整加工が施されています。高度な細部調整加工技術によって、一つの母岩から小型のナイフ形石器が量産されていることが観察できます。これらの石器の使用方法は、木や骨の側縁に溝を掘り、この溝にナイフ形石器や折断された剥片を直線状にはめ込み組合せ石器として使用されたものと推察されます。

この石器群は下総台地においては出土例が少ないのですが、本遺跡から約1km北側に位置する一畝田甚兵衛山北遺跡(空港No.11遺跡)においても、同様の石器群が出土していることから、本地域で月見野期の遺跡群が形成された可能性があると思われます。



石器出土状況



香山新田新山遺跡(空港No.10遺跡)から出土した小型の旧石器